

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400251		
法人名	社会福祉法人実寿穂会		
事業所名	グループホームポート賀茂		
所在地	福岡市早良区賀茂4丁目41-30		
自己評価作成日	平成28年10月28日	評価結果確定日	平成29年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者様ご自分の存在についてどのように感じ、どのように生きようとされているかを理解することに努めます。さらにご本人の持った力を発揮していただけるように支援を行い、お一人お一人の「思い」や家族の「願い」を実現するケアを実践します。
ご家族や地域の皆様にも支えていただきながら、あたたかで安心できる暮らしを創ることを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年11月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成28年4月に開設された「ポート賀茂」は、近隣に地域の守り神である神社があり、そばを流れる川には鯉が泳ぎ、鷺の姿が見られるのどかな田園の一角にある2ユニットグループホームである。近隣に小学校、保育園などもある。ユニット名「たまより」「あまね」は日本神話を由来にしている。母体法人は福岡、長崎で複数の介護施設を経営しており、近隣に系列のグループホーム、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅もある。本部での研修を受けたり、老人ホームの秋祭りにも参加している。近隣の公園でのランドゴルフメンバーの訪問があったり、近隣の方が散歩の帰りに立ち寄り、民生委員、公民館館長さんが訪問してくれたり、立ち上げと同時に、暖かい支援を受けまさに地域との強いかわりを築きつつある。職員はその人なりの思いを大事に「心に耳を傾ける」との同じ思いで仕事に取り組んでいる。家族の協力体制も整っており、今後も地域に根付いた事業所となる事が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念について話し合いを設けそれを事務所の目の触れやすい場所に掲示しユニット会議などで共有し実践している	理念は事業所独自の理念であり、管理者が作成。職員はタイムカードを見ながら毎日自分で唱和している。休憩室にも貼ってあり、月1回のユニット会議では全員で唱和し、同じ思いで仕事にむかえる様に、振り返りの機会にしている。今年の理念は管理者が考えたが、来年は職員と一緒に話し考えようと思っている。	来年は管理者と職員と一緒に考え理念を作成し、ともに同じ思いで仕事にむかい、より良いサービスにつながるよう期待したい。又理念のもとに職員の個人目標を立てて、具体的な取り組みにつなげてはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事、公民館で行われる教室に定期的に参加し交流を行っている	町内会に加入し、町内会長は事業所の近隣に住み何かと気にかけてくれ、夏祭りには事業所前に子どもみこしが来た。公民館長との行き来もあり、公民館で行われている月2回の体操教室に参加し、ギター教室、民謡の練習などを見学に行った。近隣の小学校に利用者の孫が通っており、運動会に参加した。12月、クリスマス会にボランティアによるギター演奏、1月、認知症の人の食事、3月体操などの介護勉強会も予定しており、地域へ参加を呼びかけ交流を行なっている。	地域の一員として育ちつつ事業所であるが、今後中学校、高校などの実習の受け入れも考え、今以上に事業所を知ってもらい、地域とのつながりを深めていく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館での民生委員の集いに参加し認知症の方の理解や支援の方法を話す機会があった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を開き、入居者の状況やサービス提供などの事業報告を行っている家族、地域の方の情報交換できるようにしている	全家族に案内し、運営推進会議は9月に敬老会と一緒にいき、家族、公民館館長、民生委員さんなど20~30人の出席があった。家族より「大きな災害に対する対応の仕方」の訓練を行なって欲しいとの意見がため、11月に行う予定にしており、テーマを毎回決めて会議を行っている。他の事業所のグループホームの運営推進会議にも職員が参加し、意見交換や交流の場所を作っている。	運営推進会議の時の議事録を、来られていない家族に送付したり、家族が訪問した時に見やすい場所に置いておかれるようにしたらどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加は無いため、運営推進会議議事録や広報誌を送付し現状把握してもらっている	運営推進会議の議事録、広報誌も送付し行事の案内などもしている。設立まじかのため市の担当者に積極態に相談を行なっている。最近急にケアマネジャーがやめたため困って、相談をしたことがあった。利用者を募る場合は包括支援センター又は法人の営業に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	神奈川県での不審者侵入事件にあたり電子ロックを行うようになった。しかし入居者が出たいと言われた時は解除し職員が付き添い外出している。家族の訪問の時は解除している	職員は一年に1回外部研修に参加し、内部研修で伝達しケアの実践に取り組んでいる。帰宅願望の強い利用者が3~4人居り、危険が伴うような時は家族了解のもと玄関ロックを行なっている。利用者が出たいと言われた時は、職員と一緒に近隣を一回りする。今年の夏頃に、事業所前の駐車場まで利用者が出た事があり、近隣の人が声かけをしてくれ事なきを得た。職員はスピーチロックにもお互いに注意し合っている	

H28自己外部評価(ポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は「虐待の防止について」の外部研修に参加 ユニット会議で伝達講習を行い虐待が見過ごせれないよう防止に努めている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の内部研修に参加 今のところ制度の必要性のある方は居ないが今後、機会がある時は活用できるように支援していく	職員は年1回外部研修に参加し、内部研修で伝達している。10月には系列の特養のケアマネジャーが外部研修に出席し、内部研修を行った。職員は制度の理解はできている。必要時は包括につなげる体制もできている。契約時には家族などに成年後見制度について説明し、パンフレットの準備もしており今後、活用できるようにしていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明し了承を得たうえで契約している また制度改正がある場合などは再度説明し同意を得るようにする		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している 日頃から家族の方には入居者の状況報告を密にしご意見や要望を伺うよう努めている 顧客満足度のアンケートを実施している	運営推進会議の時アンケートを出しており、12月には集計結果を送る。意見箱には入っていないが、日頃家族は訪問時ゆっくりと時間をかけ、それぞれの思いを話をされる。家族にも利用者の状況報告を密にして、意見や、要望を伺い日々の運営に生かしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同法人の全体会議に職員が出席し意見や提案を述べる機会を与えている	夜勤をした時は早出の人に申し送りを行う。月1回あるミーティング時に意見、提案を行うと反映させてくれる。最近もバイタルチェックをグラフでなくパソコンに入れ込むように改善された。個人面談も定期的に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が年間目標を設定し半年に1度面談を行い達成状況や勤務状況の確認を行い働きやすい職場環境に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20代から60代の職員が働いており、男女の区別なく雇用 面接で、介護の関わり方、考え方、向上心等を考慮して採用している。個人目標を立ててもらい目標に向けて働けるよう、アドバイスや研修への参加を促進している	研修は仕事の一環として行く事ができる。研修などの情報は会社でもらい、スキルアップに努めている。個人目標をたて、目標に向かい生き生きとして働けるように取り組み、先輩の職員にアドバイスをもらっている。経験の少ない職員は初任者研修の機会もある。	

H28自己外部評価(ポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	公民館で行われた人権学習に参加、人権にかかわる虐待等の外部研修を受講、人権啓発活動のビデオを見て勉強している	4月の事業所オープンにむけては事業所管理者及びケアマネジャーは3月から4月にかけて研修を行った。職員は9月に公民館で行われた人権学習に参加し、内部でビデオを見たり、市の虐待の研修も受け人権を尊重するための勉強をしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらの研修2名受講している 必要と思われる外部研修の受講 内部での研修を積極的に行い、向上を図っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのネットワークに参加し意見交換や交流の場となっている 他事業所のグループホームの運営推進会議に職員が参加している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問調査、情報収集を行いご本人の要望に対応できるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人と見学に来ていただいたり事前に不安や要望を聞きよりよいサービスに繋がるよう取り組んでいる 契約前のオリエンテーションで、ご家族とのコミュニケーションをとり関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向を汲み取り安心してサービスを受けることができるように努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らす」という意識を持ち教え合ったり励ましあったりしながら、生活を共にし信頼関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添いご家族の意向を聞きながら、ご本人と良い関係が築けるようにしている ご家族にできることは協力してもらっている		

H28自己外部評価(ポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方が定期的に訪問出来るようにしている 他の入居者のご家族との交流や、馴染みの美容室に行かれたり、かかりつけ医の受診では、待合室で近所の方と近況報告をされている	幼馴染など近隣の人の訪問がある。馴染の美容院に行ったり、墓参りなどに家族と一緒にいる。以前習っていた日本舞踊の教室に職員と一緒に見に行った事もある。野菜作りの好きな方が一緒に白菜、ねぎなどの苗を植えたり、サツマイモも作っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話できるよう職員が介入 また、編み物や洗濯物たたみ等ができる方は、一緒に職員としながら支え合える環境作りをしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族へ連絡をして様子を聞くなどしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご家族へアンケート調査を行っており、その情報をもとに今までの暮らしと変わりがないように努めている	入所前に家族へのアンケート調査、嗜好調査、24時間暮らしの情報シートをもらい、訪問時に法人独自のチェックシートでアセスメントを行なっている。本人が気持ちを伝えられない時は家族から充分に聞き取り、本人の視点に立ち考え、今までの暮らしと変わりがないように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の「24時間暮らしの情報シート」と「嗜好調査」で情報を集め、それを日々の暮らしの中に取り入れ生活を送れるようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している また、入居者の表情や言動を注意し現状の把握に努めるようにしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や申し送り等で出た意見を検討しそれをもとに、24時間シートに反映、更新を行い現状にあったケアができるようにしている	申し送り、担当者介護で意見を出しあい、24時間シートを見て変化があった時点でパソコンに打ち込む。モニタリングにコメントを書き込み、コピーをみんなに渡し月1回のユニット会議で話しあう。担当者会議は三か月に1回行い、家族の参加もあり、医師、看護師からも意見を聞き、カンファレンス時に話しあい、本人、家族の希望も取り入れるようにしている。プランの見直しは三か月及び六か月に1回行い、現状にあったプランを作成している。	プランに沿って実践された状態をわかりやすく書式にまとめたら見やすいのではないか。ケアプラン項目の日々の実施チェックをする事で、目標と実施が連動されていくのではないだろうか。

H28自己外部評価(ポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入 気づきがあれば申し送りノートに記入し職員同士で話し合い情報を共有している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調や状況に応じて食事の形態や好きな物を提供しており、その時に合ったケアを行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店でコーヒーやランチに出掛けたり、子供会の行事や公民館の高齢者体操に参加また、日本舞踊の見学を行い楽しむ機会を支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続でご家族と受診をされる方 ご家族の希望により提携の訪問診療、訪問歯科を契約 日常の様子や体調を提携のクリニックへ報告し連携を図っている	かかりつけ医には家族と受診する。利用者の状況は書面に排便、排尿、水分、食事の摂取状況、バイタルチェックなどを書き家族に渡す。内服薬の変更があった時は報告と共に処方箋を申し送りノートに張り付ける。訪問歯科、訪問診療と契約し、提携のクリニックへ報告している。提携のクリニックは24時対応で急な時には医師の指示を仰ぐ。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいないため、提携のクリニックの看護師や訪問看護師と電話やFAXで相談や助言をいただいている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供を行い医療機関と情報を共有している 入院中、スタッフ、管理者が訪問し退院を含め今後の方向性について、話し合っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明と提案をしている 今後の方針としてご本人にとって最適な方法をご家族と一緒に考え、主治医と連携を密にとっていく	契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明と提案をしている。以前胆石を放置しており、胆のう摘出後誤嚥性肺炎になった。医師、家族、職員と話しあい胃瘻をした場合別の施設に行かなければいけない事を説明した。ここで過ごしたいとの希望があり、ムース食を摂取し、今は落ち着いている。看取りの方針はあり、ターミナルケアの外部研修を受け、内部研修を行い、職員にも理解をしてもらっている。	

H28自己外部評価(ポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており職員の目に付くところに張り出し、直ぐに対応できるように周知徹底をしている AEDの使用の訓練を行っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し総合防災訓練を日中、夜間想定で年2回行う 消防職員立ち会いのもと通報装置の取扱いや水消火器訓練を実施 また定期的に防災委員会を開催している 災害時の備蓄品を備えている	年2回6月、12月に防災訓練を行なっている。12月には消防署の協力のもと夜間を想定した大規模災害の訓練を行う。車いす利用の利用者も一人おり、新人を含め職員は災害時の対応方法を見につけている。公民館、町内会長などに案内は出している。備蓄はご飯、水、敷地内に飲み水になるタンクがある。地域の防災にも参加する予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを尊重し、さりげない声かけ、言葉かけをしプライドを傷つけないように心がけている プライバシーの確保に注意し、記録などの個人情報の取り扱いの徹底に努めている 家族に日常の状況報告の際は、別室にて行う	年1回個人情報の外部研修を行っており、休憩室に貼ってある。事業所の便りに乗せる写真の使用、ブログへの掲載を利用者及び家族に了解を得ている。ブログを見て、一般の方から問い合わせがある。トイレ誘導時、失敗時のさりげない声かけと、リハビリパンツは見えないように持って行くなど、誇りやプライバシーに留意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の訴えや希望に対して職員が聴き、日常の会話からできることや、やりたいことを自己決定できるように支援を行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床・朝食など入居者の状態に合わせて声かけ、しっかり覚醒してから食事を提供している 一人ひとりのペースに合わせたケアを行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際は、声かけにてご本人に選んでいただく、整容に関しては髭剃りや化粧などを支援し、身だしなみに気をつけ、その人らしさが保てるようにしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、業者から納入している。入居者と職員と一緒に盛りつけや食器洗い、テーブル拭きなど一人ひとり出来ることを手伝っていただいている 食べたい物があるときは、外出支援として、食事に出かけたり、ご家族が持参されたりと食の楽しみを提供出来るよう心がけている	食事は業者から納入。盛り付け、片付けなどを手伝ってもらい、おやつは利用者と一緒に買物に行く。誕生日には一緒にケーキを作る。食べたいものがあるときは外出支援として、ウナギ、お寿司、マクドナルドなどに行く。家族がお寿司、とりご飯、魚などを持参してくれる事もある。魚が嫌いな人には牛肉を焼くなどし食事を楽しくできるように工夫をしている。	

H28自己外部評価(ポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残し、一日のトータルが解るようにしている 病状等により水分制限のある方は職員間で情報を共有し支援をしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医による口腔ケア講習を全職員受講し、入居者一人ひとり毎食後ご自身で歯磨きを行った後、職員が口腔内を確認し磨き残しがないようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者を提示に誘導するのではなく、本人の排泄パターンに合わせて声かけを行い、失敗や失禁が少なくなるよう支援をしている	全員は一枚のチェック表で把握し、利用者個々のパターンに合わせ、その人の時間帯に声かけ、失敗が少なくなるように支援している。リハビリパンツの利用者がほとんどで、夜間は大パッド使用。なかには4時間に1回しかトイレに行かない人もいるが、失禁はない。排泄の失敗があった時は、恥ずかしい思いをしないように、さりげなく様子を見ながら着替えの手伝いを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善のための運動、水分量の確保、便通を良くする食事など工夫している 入浴時やベッド上で腹部のマッサージを行うなどして便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日程は決めてはいるが、入居者に伺い決定していただいている。夜間以外はお好きな時間に入っていただけるよう支援している。毎回、お湯を入れ替え、湯温や時間は入居者の希望に添えるようにしている。	週2~3回入浴。時間帯は決まっていないが午後に入浴する利用者が多い。湯は一人一人一回ずつ取り替える。利用者入浴時には、職員は浴室外で見守りを行う。入浴時に皮膚観察を行い必要な時には医師に診てもらおう。シャンプー、ボディシャンプーなど本人の好みの物を家族が持参する。季節に合わせてしょうぶ湯、ゆず湯なども楽しんでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24Hシートを活用し、自宅と同じような環境作り、生活習慣の持続が出来るよう心がけている 日中の活動状況に合わせて休息できる時間を支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携を取り、薬の一包化や錠剤が服用できない方は粉末にしている 薬の効能や副作用の注意点、薬の変更など職員間で共有し確認を行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気をみて庭の畑の水やりや神社への散歩など行っている		

H28自己外部評価(ポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話から入居者の思いをくみ取り、夢実現という形で一月に一度は買い物へ出かけたり食事やドライブに出かけている	系列の特養の秋祭りに4名参加した。運動公園などにもドライブに行った。食事の外出支援などもあり、月1回は外出の機会を持つようになっている。今後もボランティア、地域住民の協力を得て外出の機会を増やしていく。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があればお金を所持することが出来る。、買い物や外食の際、所持金より精算していただけるよう支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時の契約の際、ご家族との連絡の件を話し合い、入居者が家族とお話がしたいときは、電話をかけることが出来るように支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの配置、リビングでくつろげる空間作りを行っている。季節の花を活けたり、オルゴールや昔の名曲の音楽を流す際は音量に配慮している	食堂はゆったりとしたスペースを保ち、リビングにはソファとテレビが置かれくつろぎの空間がある。天井は高く吹き抜けになっており、明るい日の光が降り注いでいる。食堂には懐かしい音楽が程よいボリュームで流れている。寒い時には床暖房を入れる。浴室も明るく、手すりが工夫されて設置されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を食堂、リビングと分けており、好きな空間で気の合った入居者同士話が出来よう椅子やソファを配置している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みのある物を持って来ていただきできる限り自宅に近い環境となるよう、ご家族に協力していただいている 暮らしやすいように入居者、ご家族と相談し部屋配置を考えている	利用者の部屋の入り口にはそれぞれ趣の違うのれんがかけてある。ドアを開けた時に部屋のなかが全部見えないように配慮している。ベッド、カーテン、タンス、エアコンは事業所の取り付けである。部屋は以前飼っていた猫の写真、孫の写真、木目込み人形など馴染の物を飾っている。位牌を持参している利用者もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を中庭で干せるように設置している。入居者が洗濯物を干したり、乾いたのを確認でき取り込めるように支援している 全面に手すりを設置しバリアフリーとなっている		